

2014年1月30日

# 三丸化学(株)の紹介

# 会社概要



設立 1981年7月  
敷地面積 29,000㎡  
資本金 8000万円  
売上金額 7億円  
従業員数 37名

ISO9001 認証取得 2000年6月  
ISO14001 認証取得 2004年6月

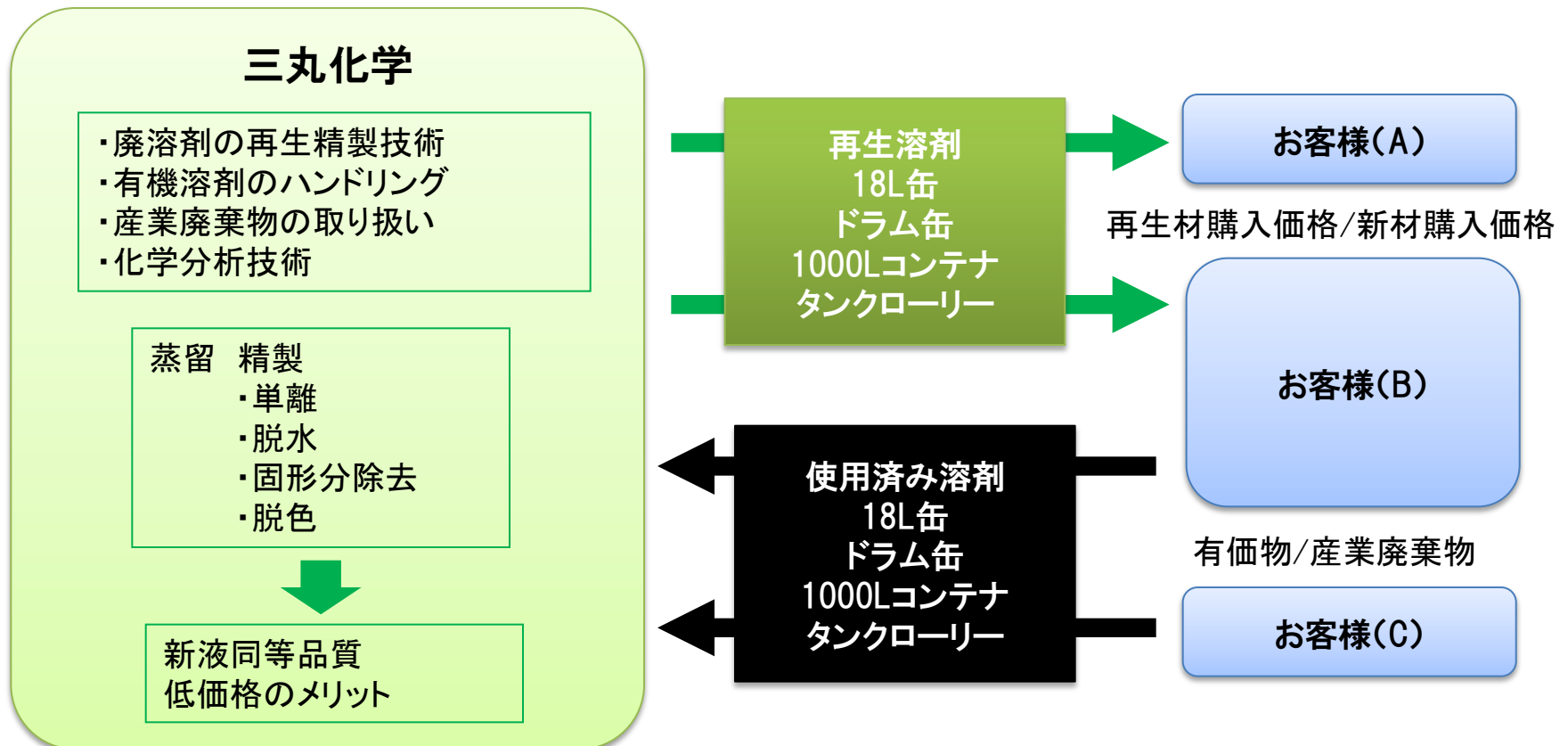
許認可 産業廃棄物・特別産業廃棄物の収集運搬・処分業  
毒物・劇物製造販売業他

所在地 宮城県柴田郡村田町大字村田字西ヶ丘12-1  
(東北自動車道 村田ICから3分)



# 使用済み有機溶剤の再生

主に蒸留によって溶剤成分と不純物に分離 → 廃棄物の減量  
CO<sub>2</sub>排出量削減  
省資源・循環型社会の形成



# 主な商材と納入先業種

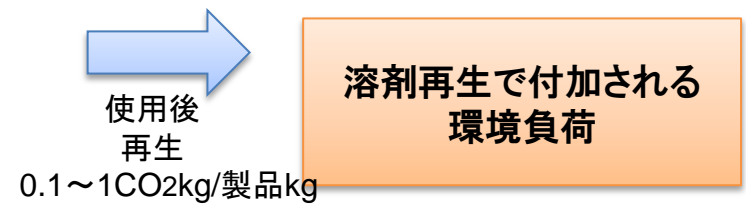
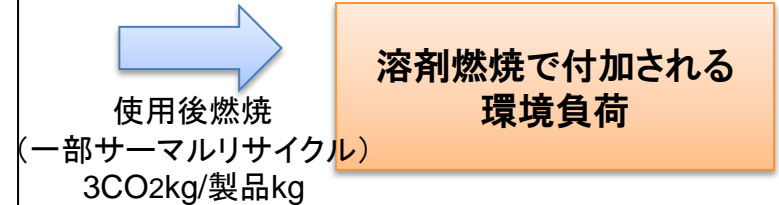
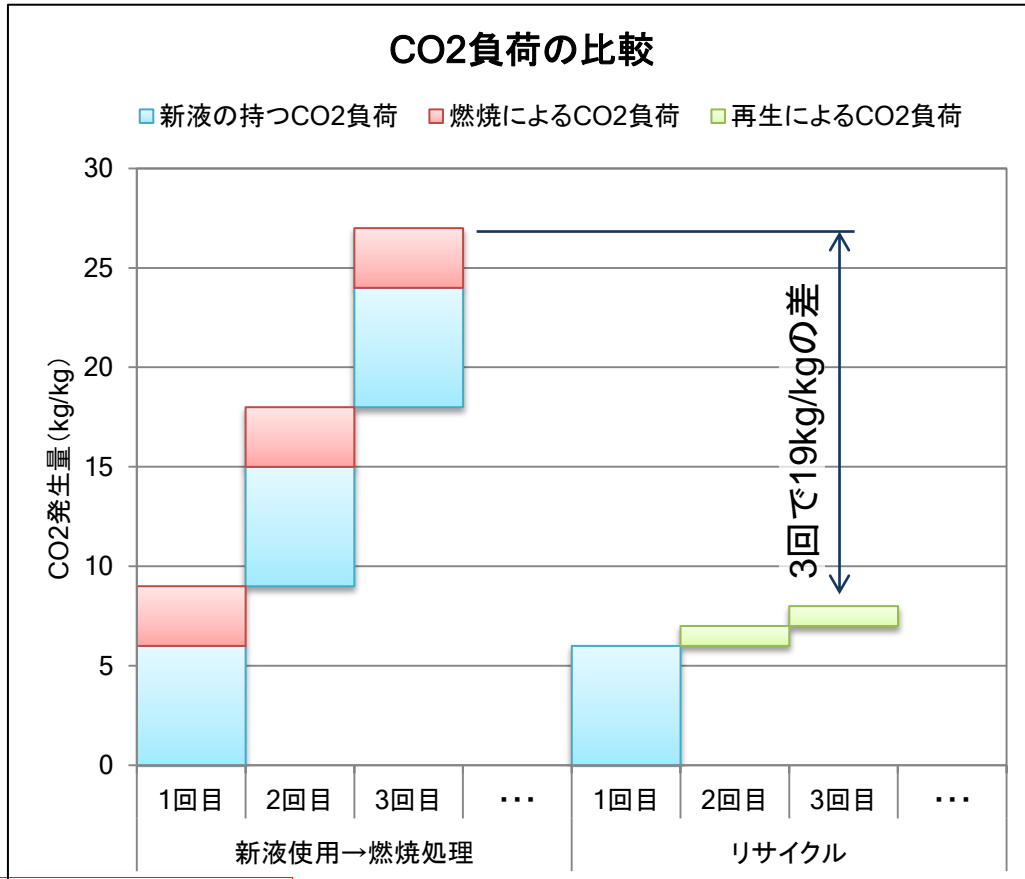
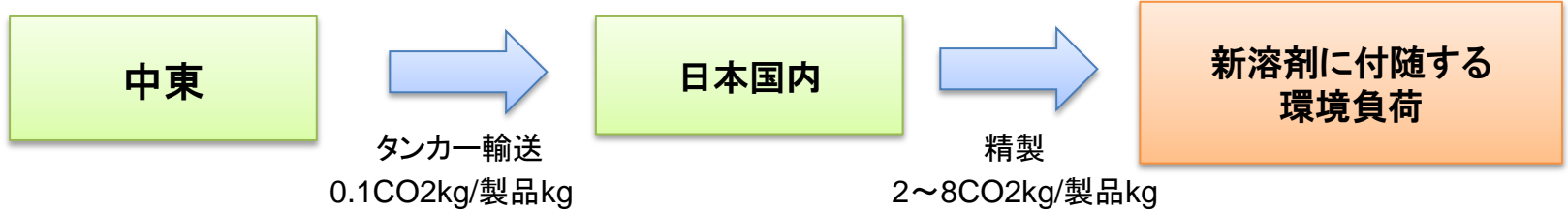
## 用途と 納入先業種

- Li-ion電池用溶剤の再生
- 磁気記録テープ用溶剤の再生
- 医薬品、化成品の反応媒体の再生  
製薬原体製造業、有機化学製品製造業
- 各種洗浄用溶剤  
印刷業、電子機器部品製造業、塗装業

## 溶剤の種類

- トルエン、炭化水素系洗浄溶剤
- メタノール、IPA
- 酢酸エチル
- アセトン、MEK、シクロヘキサノン
- N-メチルピロリドン、ピリジン、DMF
- 汎用シンナー(混合品)

# CO<sub>2</sub>削減に寄与

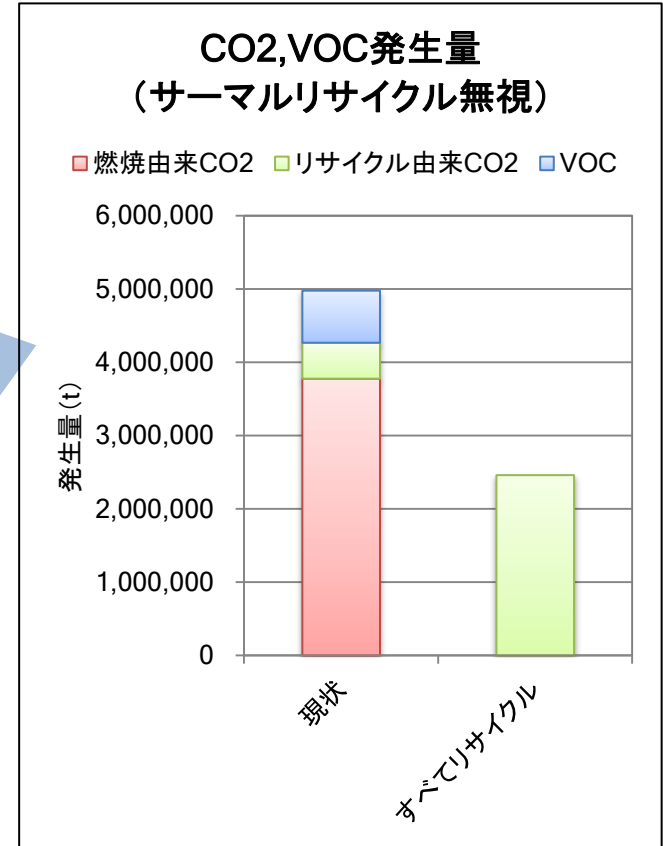
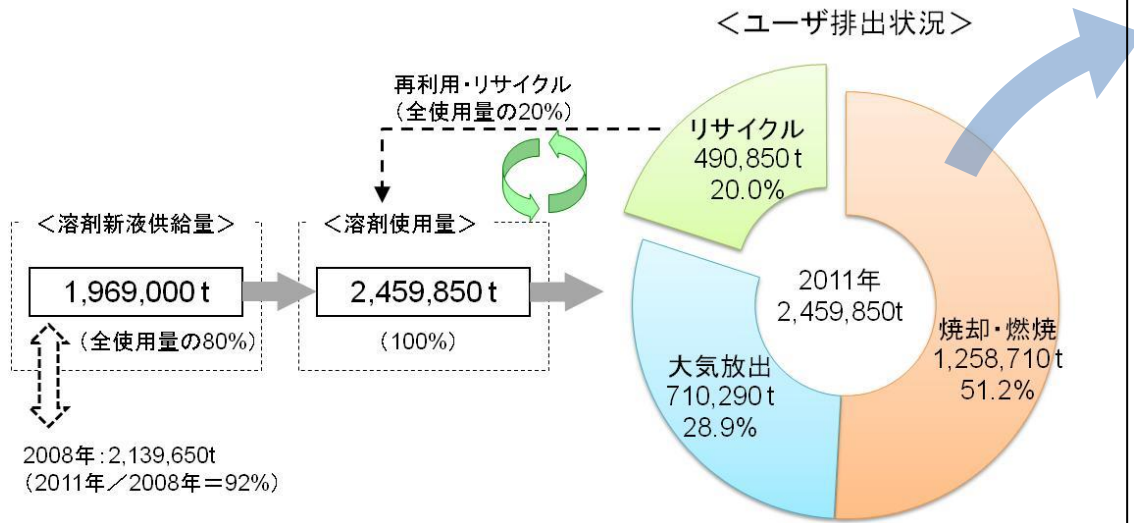


# 溶剤供給・排出処理の全体フロー

2011年における溶剤インプット(新液供給量+リサイクル品=溶剤使用量)から排出までの動向

なぜリサイクルが浸透しないのか

1. 精製の困難・・・固形分、溶解物、水分等の除去
2. 輸送費  
([再製品=低価格]・・・遠隔地リサイクルの壁)
3. CO<sub>2</sub>クレジット取引対象外(現在手続中)



- 2011年の溶剤使用量は、2,459,850t、内1,969,000t(80%)が溶剤メーカーによる新液供給量とみられる。ユーザによる排出状況のうち、焼却・燃焼によるものが約50%、大気放出によるものが約30%、リサイクル(再利用)が約20%という結果となった。
- 2008年の新液供給量との比較では92%と減少している。医薬業界以外は基本的に減少推移。減少要因は、①自動車生産台数の減少(1,000万台から900万台へ)、②電気電子業界の生産縮小・海外移転、③リーマンショックの影響後、市場回復するが内需自体の緩やかな現象推移・・・などが挙げられる。

# 社内技術の応用による新事業ドメイン 非臨床体外診断薬の開発・製造

試薬開発企業との協業

化学分析、液物ハンドリング、コンタミ防止等のスキルを応用したドメインシフト

血清中金属の診断試薬

研究機関、大学からの受託分析



ICP分析機能の活用  
前処理のノウハウを活かして  
生体試料中の微量金属を分析

Ca, Cu, Fe, Mg, Zn など

ありがとうございました